

第39回東京女子医科大学・神経懇話会

日 時：2012年1月27日（金）18:00~20:00

場 所：東京女子医科大学 南別館1階会議室

一般演題 18:15~19:00

座長（病理学第一講座）柴田亮行

1. 進行性筋ジストロフィーの治療の進歩

（¹東京女子医科大学小児科，²独立行政法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所遺伝子疾患治療研究部）
齋藤 崇^{1,2}・梶野幸子¹・佐藤孝俊¹・村上てるみ¹・石垣景子¹・武田伸一²・大澤真木子¹

2. 脳梗塞のタイプによる血管拡張反応の相違に関する研究

（東京女子医科大学神経内科）安達有多子・堤由紀子・矢野知佐子・飯嶋 陸・内山真一郎

3. 3T MRI を用いた Time-SLIP 法による脳脊髄液イメージングの初期経験

（東京女子医科大学¹画像診断・核医学科，²画像診断部，³脳神経外科，⁴東芝メディカルシステムズ株式会社）
阿部香代子¹・小野由子¹・小笹雅也²・竹山 守²・藍原康雄³・岡田芳和³・清水誓子⁴・山本貴雄⁴・坂井修二¹

4. ウサギ前海馬台領域の神経線維連絡の解析

（¹東京女子医科大学医学部解剖学教室，²東京農工大学大学院農学研究科獣医解剖学研究室）
本多祥子¹・柴田秀史²・藤枝弘樹¹

特別講演 19:00~20:00

座長（小児科）大澤真木子

分子モーターがつかさどる生命の仕組み：記憶学習の制御

（東京大学大学院医学系研究科特任教授）廣川信隆

当番世話人：（小児科）大澤真木子

共 催：東京女子医科大学，エーザイ（株）

1. 進行性筋ジストロフィーの治療の進歩

（¹東京女子医科大学小児科学教室，²独立行政法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所遺伝子疾患治療研究部）

齋藤 崇^{1,2}・梶野幸子¹・佐藤孝俊¹・

村上てるみ¹・石垣景子¹・武田伸一²・大澤真木子¹

Duchenne 型筋ジストロフィー（DMD）はジストロフィン遺伝子の変異で発症する遺伝性筋疾患である。エクソン・スキップは、アンチセンスオリゴヌクレオチド（AON）を用いて標的とするエクソンのスプライシングをスキップし、アウト・オブ・フレームの mRNA をイン・フレームに誘導することで、欠損しているジストロフィンの回復を促す手法として研究が進んでいる。AON は主に phosphorodiamidate morpholino oligomer（PMO）または 2'-O-methyl phosphorothioate（2'OMe）が用いられており、我々は PMO を用いて DMD 患者細胞およびモデルマウスでエクソン 51 スキップ、ならびにモデルイヌでエクソン 6,8 スキップを行い、ジストロフィンの回復と症状の改善を報告した。現在エクソン 51 ス

キップは PMO および 2'OMe を用いた治験が進行中で早期の臨床応用が期待されている。

2. 脳梗塞のタイプによる血管拡張反応の相違に関する研究

（東京女子医科大学神経内科）

安達有多子・堤由紀子・
矢野知佐子・飯嶋 陸・内山真一郎

〔目的〕血管拡張反応（flow-mediated dilatation：FMD）を用いて脳梗塞の3つのタイプにおける血管内皮機能を測定し、同時に stiffness parameter β （ β 値）を測定して血管弾性を調べた。さらに血管内皮機能と食嗜好の関連について調査した。〔方法〕脳梗塞患者 63 例（ラクナ梗塞 35 例，アテローム血栓性脳梗塞 19 例，心原性脳塞栓症 9 例）を対象とした。前腕動脈を収縮期血圧 + 50 mmHg の圧力で 5 分間圧迫して解除し、超音波装置を用いて上腕動脈の駆血前と解除後の血管径を測定して最大拡張率（%FMD）を求め、総頸動脈にて計測した収縮期、拡張期の血管径および血圧から β 値を算出して患者対照群 20 例（平均年齢 70.0 ± 10.5）と t 検定を用いて比較